

新潟県

62年

# 公民館月報

8月  
第414号

## 特集 座談会

—非常勤公民館長大いに語る—

### 越後の郷土玩具(八)

#### 新発田金魚台輪

手元にある葉によれば、新発田藩主溝口侯のお抱え笛師の子孫竹細工師矢代某が、子供たちの夏の夜の遊び玩具“灯玩”として考案したものという。

木枠の台に竹ヒゴで形をつくり、和紙を貼り、中にローソクを点して紐を曳いて歩く。両側の鱗がユラユラと動き、金魚の赤い彩色が明りに映えて美しい。

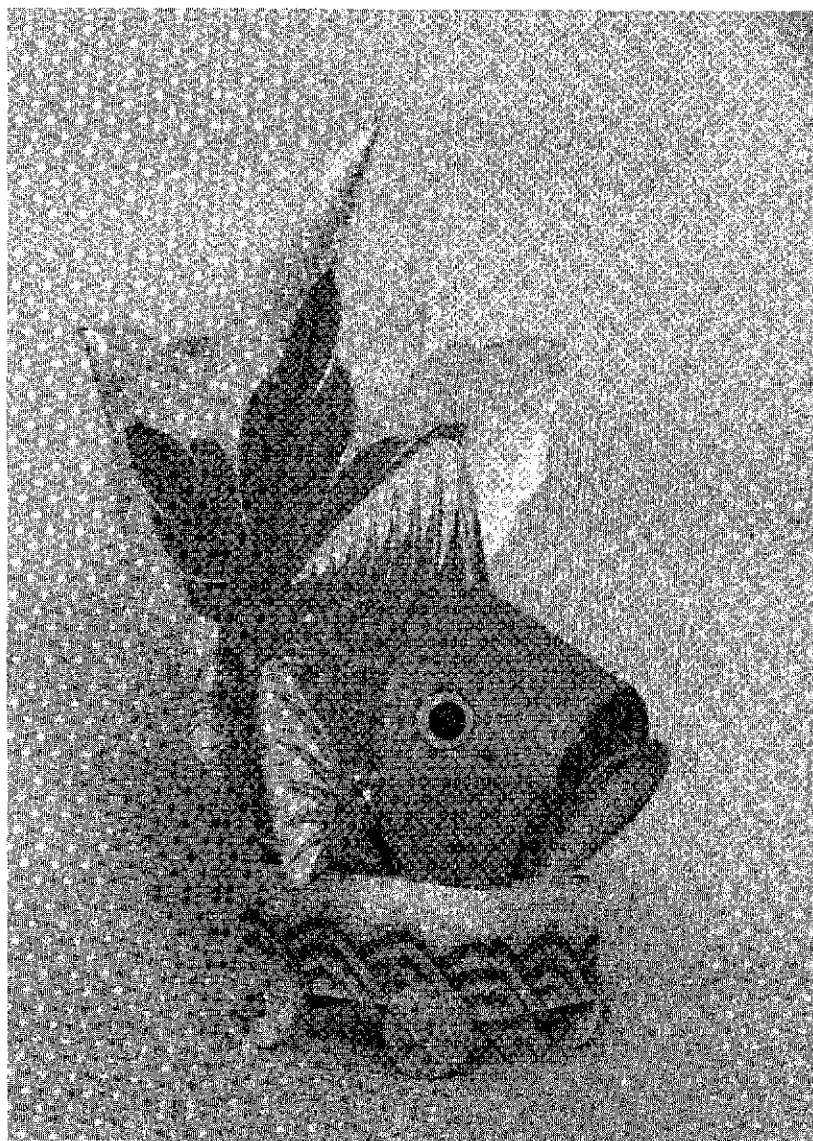
この種の灯玩は、弘前の金魚ねぶた、柳井の金魚提灯とともに三大名玩といつてよい。

新発田の夏祭りの八月二十七日には、有名な三ッ車けんか台輪があるが、勇壮で荒っぽい大人の屋台なのに対して、子供用に高さ二米以上の大きな金魚台輪数十台が近年大勢の子供たちによって曳き廻されるようになった。

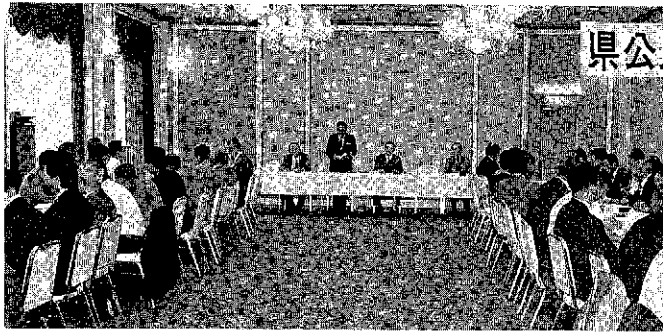
けだるいような暑さの夜、大きな鱗をユラユラ動かして、本物の金魚さながら泳ぎ廻る有様は真夏の風物詩として相応しい。

筆者の金魚台輪をみた知人が、幼なかつたころ貧乏で買って貰えず泣いた憶えがあるとしみじみ述懐していた。

県内には、ほかに鯛を題材にした村上の鯛ぼんぼり、三条の鯛車がある。(玩物厨あるじ記)



### 県公民館振興市町村長連盟定例総会



あいさつする田中県教育長

去る七月九日(水)新潟市白山会館において、本県公民館振興市町村長連盟の本年度定例総会が開催された。昭和六十二年の事業計画、予算案が審議承認されたほか、本年度は役員改選の年であり、会長・副会長・理事等の選任がなされ、新会長には小千谷市長星野行男氏が選出された。

# 新会長に星野行男氏(小千谷市長)

## 副会長は伊豆野壹郎氏(両津市長) 小野正毅氏(青海町長)

当日出席の会員六十七名。他に来賓として、県教育長田中邦正氏、本会々長志水亘氏、ならびに前会長石井耕一氏をお迎えして盛大な総会が開催された。

星野副会長が、開会のあいさつに立ち、石井前会長の功績を讃えながら、本総会の諸審議を滞りなく済ませたい旨のあいさつがあった。

次に、本会会長のあいさつに続いて、県教育長田中邦正氏から大要次の祝辞があった。

『公民館は、戦後一貫して地域住民のための社会教育施設として重要な役割を果たして来た。近年、生涯学習の必要が叫

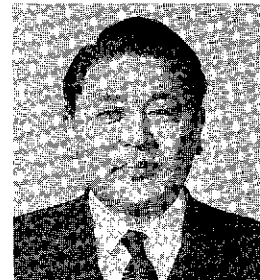
ばれ、臨教審第三次答申においても、「施設機能のインテリジェント化の推進」を指摘している。従来の機能の上に、学習情報の提供や、個人学習への援助など新しい機能を附加し、より一層の充実を図ってほしい。』

### ご協力をよろしく

### 星野新会長就任あいさつ

ただ今、役員改選にあたりまして、満場一致で私どもを選任していただきました。私につきましては、もとより浅学非才でございますが、石井

の会務報告、決算の承認、昭和六十二年の事業計画、予算案について、審議承認された。また、役員改選では、副会長の星野行男氏を会長に、副会長には、伊豆野壹郎氏・小野正毅氏を、さらに理事については、近寅彦氏(新発田市長)小川竹二氏(豊栄市長)を新理事に、秋山利作氏(松代町長)は事情により副会長から理事にと、それぞれ選任された。なお、その他の理事・監事の諸氏は留任と、満場一致で決定した。最後に、石井前会長への感謝状と記念品を贈り、長年の功績を讃えた。



星野会長

前会長さんのあとをお引き受けして大役を全うすることができませんかどうか、はなはだじくじたるものがございます。先ほどの田中教育長さんのお話にありましたように、「生涯教育」地域おこしに公民館が大きな役割を果たすことは論をまたないところであります。そういう観点から、各市町村連盟の目的達成のために全力を尽くしたいので、ご指導・ご協力のほどお願いいたします。

## 東邦の一時払養老保険のおすすめ

### 公民館職員におすすめする有利な貯蓄!

#### ◎魅力のポイント

1. 3年、5年、7年、10年の満期が選択できます。
2. 高利回り
3. 10万円以上から取り扱います。(1万円単位)

3年 6.87% 7年 8.32%  
5年 7.54% 10年 9.78%

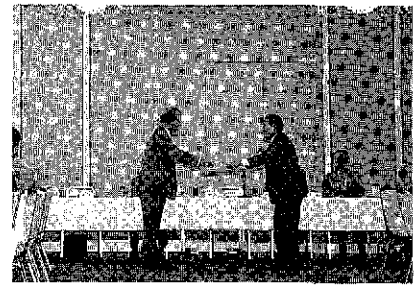
#### ◎お申し込み先

東邦生命保険新潟営業推進室  
TEL 025 (228) 3591

### 新潟県公民館振興市町村長連盟役員名簿

昭和62年7月9日

| 役 職 | 所 属       | 氏 名                 |
|-----|-----------|---------------------|
| 会 長 | 小千谷市長     | 星 野 行 男             |
| 副会長 | 両 津 市 長   | 伊豆野 壹 郎 毅           |
|     | 青 海 町 長   | 小 野 正               |
| 理 事 | 新 発 田 市 長 | 近 實 彦 二 夫 実 二 雄 郎 作 |
|     | 豊 栄 市 長   | 小 川 倉 信 靖 春 久 利     |
|     | 中 条 町 長   | 熊 板 大 南 大 秋         |
|     | 山 北 町 長   | 堀 之内 長 大 南 大 秋      |
|     | 川 西 町 長   | 新 井 代 町 長           |
|     | 新 井 代 町 長 | 村 松 町 長             |
|     | 村 松 町 長   | 中 之 島 町 長           |
|     | 監 事       | 茂 野 敏 象             |
|     |           | 茂 野 敏 象             |



感謝状を贈られる石井前会長

## 石井前会長退任のあいさつ

石井前会長は、「いよいよこれが最後のあいさつになりました」と前向きをして、公民館の来し方、行方に思いを馳せつつ、概略つぎのようにあいさつされた。

今年地方自治法ができて四十年。公民館はその前年にできました。ご承知のように、文部次官通牒によるものです。当時、私は町の総務課長で、まだ教育委員会の無い時代。教育事務は総務課の主管でしたから、次官通牒は私の担当でした。『これは変わった通牒だなあ!』と思ったのが実感でした。昭和二十四年には社教法ができ、公民館は社会教育施設となったが、次官通牒に示された公民館は教育施設の範囲を超えたものだと思います。

昭和四十八年、時の県公連会長小野塚忠義さんに懇願されたので、やむなく会長を引き受けたのですが、その時の県公連には、市町村長の政治の力がどうしても必要だったからです。というのには、ご承知のとおり、県の市長会・町村会・県地方課の三者で「法令外負担金の規制」つまり団体助成の負担金を抑えようというのです。そのころの県公連は、八十万円の市町村負

担金で、専任職員を二人抱え、事業費どころか、給料さえ十分には払えない実情でした。そこで私は、審査会で、規制審査でなく適正審査にするよう主張し、それが受け容れられ、逆に増額され四・五年で三倍に引き上げることができました。県からの助成も増額していただき今日を迎えているわけです。

このように、公民館の振興には、市町村長の理解と協力がなくてはできないのが実態です。かつて公民館建築費の国庫補助額を飛躍的に押し上げたのも、全国の市町村長連盟の力が結集されたからであります。

今や、村おこし町づくりと共に、生涯教育時代を迎えているわけですが、これは、市町村の教育以外の機関との連携が重要なのでありまして、それらの連携の的中核として、公民館の役割はますます重要になってきます。そのような意味から、本連盟がますます活躍されることを期待しています。長年のご協力に衷心から感謝いたします。

(録音テープを再生しての要点紹介につき、用字等必ずしも真意を伝えていないかもしれませ

文責 編集子)

## 辛 口

高度経済成長を遂げたわが国は、貿易黒字世界一の「金持ち国」になつたといわれ、外国からは「もって金を使え」と騒がれている。

国民が本当に金持ちになつての「金持ち国」ならわかるが必ずしも



そうではない。意識は中流でも、昔の中産階級ではない。その証拠に、都市のサラリーマンは税金でアップアップしている。また、地価が高く

### 都市と農村の連帯を

小林 豊 政

でとても家を持っていない。その揚げ句に、農業が悪いからだ、マスコミを通じて農業告発をしているように見える。

他方農村では、農業

で、安定しているのだから、こんな現象はおこらない筈なんだが。

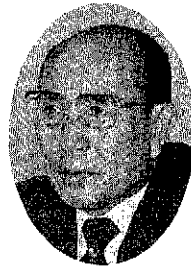
委員)

木材は使うが外国のもの、米は食べるが外国産の米、というようなことでどうして文化の発展があり得ようか。『真実の農村の情報』を都市へ逆流させよう。一方的な都市情報と科学文明情報のみだ、自然も文化も衰亡の道しなくなるだろう。中里村社会教育

座談会

非常勤館長大いに語る

- 〈出席者〉
- 岩崎 照 (相川町公民館長)
  - 小川 甫 (長岡市上川西公民館長)
  - 高橋康夫 (与板町公民館長)
  - 松岡 猛 (糸魚川市中央公民館長)

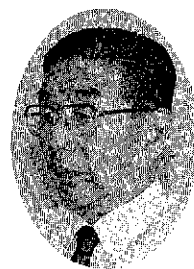


岩崎氏

を抱えているので、自発的に月火木金を出勤日とし、その日は一般職員と同じに朝八時半から午後五時まで勤めています。小川 私の場合、地区館のせいかもしれないと大らかです。以前は、「あいさつ要員」のみだったらいいのですが、私が館長になつてから、新しい公民館が建てられ、いかにげんな管理ができていないので、つい毎日出勤しています。最近では、維持管理に落ち着きがでたので、「児童館」(併設兼務)と交互に勤務しています。

行政と施設のはざままで

司会 通り館長さんの置かれている立場と様子を話していた



高橋氏

だきまして、アウトラインがつかめたように思います。それでは、非常勤のためにやりにくいところは？

岩崎 その前に、公民館の法的位置づけに問題があります。たとえば、①社会教育の行政と施設との混在の問題、②公民館長の必置と、それでいて交付税の積算対象になっていないこと。などがすべて理想と違っているのですね。

なるのが人情ですね。小川 私のところは、地区館ですら中央公民館が上にあり、行政とはワンクッションあるわけです。皆さんのような問題はありませぬ。事業計画の立案や実施についての大部分は、館長の責任でやらねばなりません。ですから、逆にいうと、活発に活動しようと思えばどこまでもやれるし、「あいさつ要員」で済ませようと思えばそれもできるといふところです。

非常勤館長の権限

司会 もと、学校教師だった館長さんは、行政の力が強いという印象をお持ちのようですが行政経験者の岩崎さん、そのへんはいかがですか。

岩崎 私は職員にはっきりと語っています。「非常勤だからといって、安易に判を捺させるな」と。また、「教育委員会の事業と公民館がやる事業と一本化したらどうか」とも言っているんです。また、課内会議のときには、私のいるところで事業計画の立案から実施に至るまで話し合ってみても、いざ事業を実施するときに変えられても非常勤だからあまり強くも言えない。

あいさつ要員でいいのか

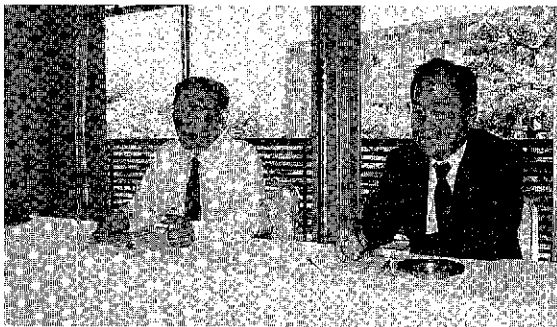
さっそくですが、皆さんの勤務の態様を紹介してください。

岩崎 私は、週二日午前中という約束で特に規定はありません。

ん。出勤する日に報告を受けたり、事業の進めかたの打合せなどをしています。その他に事業等の開催時の「あいさつ」。これが主で曜日や昼夜の別なくやらねばならない。

高橋 私の場合は、週一回顔をみせればいいといった程度。但し勤務青少年ホームの所長を兼ねているので、ついでに顔をだしているの、実際は週三回程度です。きちんとした取り決めはありません。むしろ「あいさつ要員」。

松岡 私のところも勤務の規定はありません。週四日という口約束です。でも、中央公民館という責任上(他に十の地区館



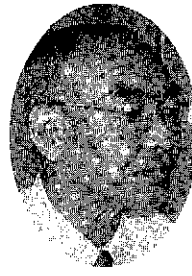
高橋 行政と公民館との未分化の点が全ての根源ですね。職員は社会教育課と公民館の両方の仕事をしている、というよりは、一つの仕事としてやっている。だから決裁の必要なのは行政上の縦の系列で処理する。非常勤館長は事業を進める上での相談役か顧問としての役割程度になってしまう。

松岡 私のところでは、決裁はしていませんよ。でも、どちらかというと形式的というところかな。職員は、社教と公民館の二足のわらじだから、どうしても非常勤の館長のいうことよりは行政のほうが怖いということに

司会 そのほかはまだ何か？

高橋 例えば、ある研修に、職

員の誰だれを参加させたいと思っても、予算を持っていない悲しさから、「その儀に及ばず」といわれれば参加させるわけにいかない。もちろん、予算をにらんで、諾否をくだすのはわかるが、この研修・あの研修・その会議等の選択権が館長にない。



松岡氏

**松岡** 糸魚川市の地区公民館では、主事も民間から嘱託で起用しているのですが、事業をする、伝票やら帳簿などの取り扱いが複雑で難しいので、萎縮してしまふ、挙げ句の果てに、あまり事業を多くしてくれない、本末転倒するような結果になってしまふ。そこに指導の難かしさがある。

**高橋** 文書類が館長の承知しないままに処理されていることがある。これは困ったことだ。近隣の町村の公民館長に、「先日の会議を何故欠席したか？」と問われても、こちらはその通知を見ていない、といったことがままある。

**小川** そうしたことは、私の場合もあります。職員が忙しさに紛れて連絡が疎になるのですし

りが。ですから、先程申しましたように、毎日出勤するというのはそのためでもあるわけです。顔をだしていれば、職員の気心が知れ、動きもよく分かるし課題も把握できます。とにかく「あいさつ要員」だけでいたくない、とまあ、そんなわけです。

**岩崎** 職員の中でも、ペテランになるほど、館長に相談しないで、自分の判断で仕事をすすめていく。だから、そうしたペテラン職員に軽く見られないような、見識を持つ必要がある。

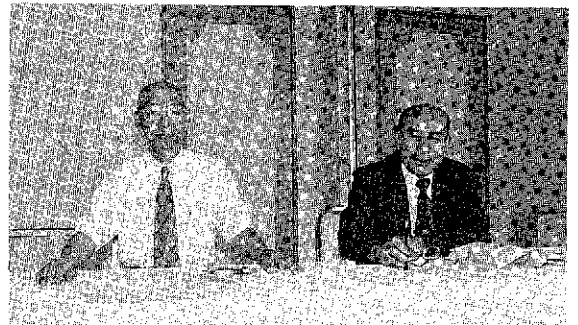
**高橋** お言葉ですが、それとは反対の場合もあります。つまり、ペテランの職員ほど館長の気持ちを理解して、より教育的発想を大切にしてくれるようです。一般行政からやってきて、そのペースで全てを処理しようとする職員が困るんです。

**生きがいはあるが**

**司会** なかなか大変ですね。今度は話題を変えて、非常勤の楽しさ、非常勤だからやれる、といった痛快な話を。

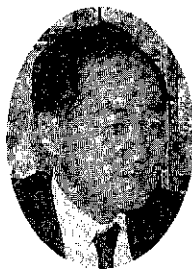
**松岡** 私は非常勤ほど強いものはないと、何時も思っています。嫌がるわたしを無理に館長にさせたのだから、なった以上は私の好きなように運営させてもらおう、という気持です。

**高橋** 一般行政の部門に教えた



とも接しられる。この点がいいんですね。それに、誠意をもって仕事をしていると、人はちゃんとみていますね。

**高橋** 町を歩いていると、見知らぬ人からも「館長さん館長さん」とあいさつを受ける。こんな気持ちのいいことはありません。これが生きがいなんです。



小川氏

**小川** そのとおり。だから、「一人の館長があまり長く館長をやらないで、次の人にこの喜びを味わってもらいたいと思う」と言うのと、それは困る終生やってくれと言われる、これまた嬉しいことです。

**非常勤だけの館長研修が必要**

**司会** こんなふうに、ボランティア的な活動をしている。これは行政が、館長さんたちの善意に甘えていることになりませんか。

**岩崎** 行政側は、予算削減の問題もあるにはあるが、それ以上に、「名誉職」と考えているんです。

**松岡** 各階層の人たちのどなた

会議で「館長はどう考えているのか」と質問をされるが「社会教育主事はどう考えているのか」とは聞かない。だから、館長は自信をもって、責任ある回答をしなければならぬ。

**司会** そうすると、いわずもがなのことですが、非常勤とはいながら、公民館運営の「理念や理論と、事業に関するハウツー」などじゅうぶんな識見を持つ必要がある……。

**岩崎** そのとおりです。昔は、県の社会教育主事さんが、公民館の現場まで出てきてくれて、町村職員と膝つき合わせて深夜までデスクッションやら、指導をしてくれたものです。

**司会** 県教委には県教委なりの緊急な社会教育振興上の課題があります。

それはそれとして今後に期待する一方で、県公連でも自助努力をする必要がありましよう。最後は県公連の役割というところへおハチがまわってきたようですね。職員論はまた別の機会にするとして、こんなところでお開きにさせていただきます。

長時間有難うございました。  
(司会 上村捨二郎)

# 県外の実践に学ぶ

## 「あがたの森」 研修紀行

二市北蒲公連 研修レポート

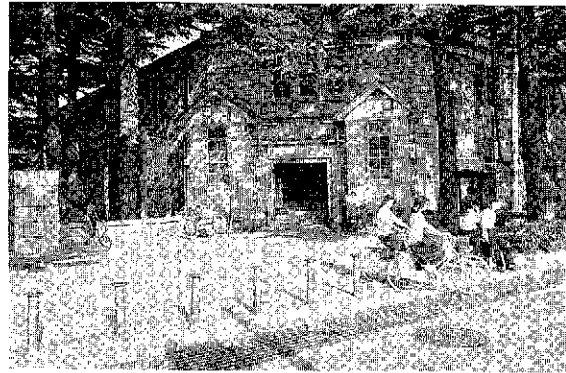
「百聞は一見にしかず」という。優れた実践を現地に学ぶことは、極めて具体的で、価値ある研修である。ただ、その内容が吟味され、綿密な研修計画がたてられ、事前の学習がなされてのことであるのはいままでもない。その課題に挑戦した、二市北蒲公連の実践の記録を手島勇平氏から寄せていただいた。

最近、行革がらみの緊縮予算化で、県外研修となるとこの市町村も厳しいようです。しかし、外からわが町や村の公民館の活動を振り返り見つめることができるのであれば、それは極めて高い価値があると思います。ただし、当然のことながら「献酒会」に陥らない、優れた、豊かな実践に学ぶことであり、そうした対象の公民館があつてのことです。

限られた時間のことですから、住民の生活課題と結びついた公民館の活動の全容をつかむのは無理としても、研修の目的が明確であれば、時間の長短とは別に、胸に納まるものがあるのではないかと、そんな気持ちで、このたびの県外研修を企画しました。

今年の先進地視察に長野県松本市を選んだのは、「冊の本」学習・文化・ボランティアのまちづくり(手塚英男著)との出会いからでした。その本は、「あがたの森」にある初代公民館長手塚さんの実践をまとめた社会教育実践論です。研修に参加する私たちの仲間は、その本から、次のことを学びとって来ようと思ふとあらかじめ課題を持つたのです。

その①、多くの市民に愛され、多彩でユニークな数々の活動が生まれた背景は何か。その②、単に施設・設備などの条件によるものではなく、人と人との結びつきがあり、共に集い、学びあう喜びがあり、そして、それを支える理念、社会教育の姿を感じとってきたい。そしてその③には、書物中にある「松木駅から東へ徒歩十五分、ヒマラヤ



「あがたの森」のシンボル施設

杉の森に囲まれて建つ、昔ながらの空色の木造校舎：」とある「あがたの森」で実際どのように取り組まれているのか、でした。

時は6月23・24日の一泊二日の行程、参加者13名は、測料、6時松本市内に入り、「あがたの森」の交通標識が見えてきました。そして、ヒマラヤ杉の森にバスが到着、大正8年創立の旧

制松本高等学校、このキャンパスと校舎を文化財として保存しつつ、市民の新たな文化活動の場として活用してゆこうという市民運動が実って、8年前「あがたの森文化会館」としてスタート。およそ7万平方メートルのキャンパスは市民の憩いの公園に生まれ変わり、三千五百平方メートルの校舎と講堂は県指定文化財で、そこには、あがたの森文化会館・公民館・図書館・旧制松本高校記念館の四つの看板が掲げられていました。

私たちは、木のぬくもりを感じる部屋で、案内役の職員から「ここでは、住民の自主活動(二万人を超える各種サークル活動)が展開され、その住民との共催による公民館・図書館の活動があり、その上に各団体と両館が協力してつくる文化まつりが展開される。このサークル文化から地域文化への発展を「あがた」の三層構造と言っています。」と説明してもらった。この説明から、先に見た四つの看板は単に掲げられているだけのものではなく、有機的に機能している実態をかい間見た思いがしました。

続いて、初代館長の手塚さんから長野県の公民館活動について講義を受けました。「社会教育の使命は終わったとの説があるが、本県公連では、歴史から現代の課題を捉えるため、公民館活動史をまとめている。その編集にかかわり、公民館の歴史をひもといてみると、住民が日常の課題を学習教材に据えてイキイキと活動していることがわかる。また、そこには、熱意ある主事が、公民館のエネルギとなり、「心は住民から辞令を受けている」ようだった。今、全国で地域おこしが盛んであるが、そのためにこそ、地域課題に公民館が積極的に取り組み、地域によさ、住民の活力をいかさなければならぬ。今こそ公民館の出番である」と熱っぽく語られた。

実は、その手塚さんは新潟県と縁のある方で、糸魚川の青年団の相談相手になったり、津南町には、昨年職員研修の講師として招へいされているのだという。

「あがたの森の三層論」そして、手塚さんの「心は住民から派遣された職員に」という言葉にふれ、大きな収穫を得た思いでした。松本市内の民芸家具には手が届きませんが、大きなお土産をかかえて、帰って来ました。

(聖籠町公民館社教主事 手島 勇平記)

# 情報広場

## 原稿募集

自分たちの活動を、広く全県に紹介しませんか。それをおもして友だちの輪を広げませんか。この「情報広場」を、そんなふうにご利用してください。

「情報広場」を、公民館職員の方の皆さんだけでなく、一般利用

者の交歓の広場としてもご利用ください。  
左に紹介したのは、直接本紙のために投稿したものではありませんが、こんなふうな内容を大いに紹介したいものです。  
四百字詰原稿用紙一枚、一枚半程度、スナップ写真が添えられればなおけっこうです。切は毎月15日、送り先は八頁の発行所宛、採用原稿には薄謝を早

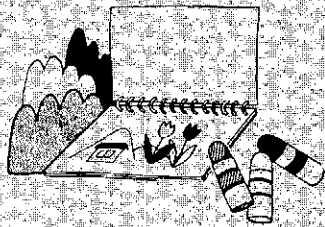
## サマソール登場

### くれよん

#### 手作り絵本の会



昭和61年公民館主催の「手作り絵本の教室」の受講者が中心になって、62年1月に発足したばかりです。会員は現在15名、月2回の例会を開き、絵本についての学習をしたり、実際に絵本を作ったりしています。手のかかる小さな子供を連れての学習・製作はなかなか大変で、集まった時には作り方のノウハウを字がのみで、後はそれぞれ家庭に持ちかえり子供が寝ている合間にとつとつ作るというたかんじです。そんな風にしてようやく作りあげた時



の喜びは、苦労が多いたけにひとしおです。我子に世界にたった一冊しかない絵本をプレゼントしようという気持ちで、今2冊目に取りかかっています。遅くともこの秋には完成させ、また発表会が開けることを楽しみに、会員一同がんばっています。その時はぜひ見に行ってください。

## <公民館だより とやの>

5月25日号から

### 新津市中央公民館

係長 石崎義郎氏 (37歳)

今年の県大会の会場地、新津市中央公民館で、大会準備の裏方として、活躍した石崎さんを訪ねた。



我夢中でし  
た。ほんとう  
にご苦労様  
でした。さ

「大会の成功おめでとうございました。お疲れでしょう。」「正直言って疲れました。何しろ、四月着任早々からですし、教育委員会は始めてのこと。無

っそくですが、前歴は？」「この三月まで、能代川国道整備対策室」という教育とは無縁のところでした。」「四月からどんな仕事を？」「もっぱら大会準備で明け暮れでした。他のことはまだ何もわかりません。これから、一つひとつの仕事をじっくり覚えなければ」とおっしゃる。そんな中にも、三市中浦公連で実施した県外研修(五月)で素晴らしい実践に魅せられて帰ってきたことを語る口調に、のめりこみの姿勢が見えた。(上村記)

## 素顔拝見

### 糸魚川市大和川地区公民館

副主事 中谷万里子さん (30歳)

これまで東京の証券会社に勤務していたというあかぬけのした若妻。この公民館に勤務して二年目を迎える人。

「担当している仕事は？」  
「受付け事務と経理が主です。」

その他に和田(公民館主事)さんのお手伝いを」とと控え目に答えてくれた。と、傍から和田

さんが、「とんでもない、お手伝いなんて、そんないいかげんなものじゃありません。婦人部の活動はいつに引き受けているんです」と言葉が飛んできた。



「婦人部の活動って？」  
「二つの支館(分館?)で開設して

いる婦人学級の運営と、地区館での体力づくり教室の運営です。」「公民館の仕事は楽しいですか？」  
「地区内のいろんな人と顔なじみになってとても楽しいです」と明るい声が返ってきた。

ちょうどそこへ、学校返りの小学生が二人、図書室の図書返却に窓口へ現われた。中谷さんはその子どもたちに元氣な声をかけていた。(上村記)

1・2の3ちゃん 放送スケジュール

Table with 5 columns: 回 (Episode), シリーズ (Series), テーマ (Theme), 担当の先生 (教師略) (Teacher), and 先生名 (Teacher Name). It lists 26 episodes of the '1・2の3ちゃん' program.

県事業紹介

社会教育課

昭和六十二年度 文部省認定 社会通信教育地方受講者研究集会

- ◆趣旨 社会通信 教育受講者の学習意欲の向上及び、学習成果の高揚を...

がき」に、①氏名、②年齢、③性別、④職業、⑤希望課程名を...

家庭教育(幼児期)相談事業

(1・2の3ちゃん)

テレビ放送

○放送時間 日曜日、午前八時四十五分、九時 (再放送、土曜日、午前七時三十分〜七時四十五分)

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】 【電話・新潟(025)224-6073】

発行人 会長 志水 亘

編集人 事務局長 上村 捨二郎 【定価1部120円 年共・年販1,440円】

◆また、この問題は、大会だけで片づけてしまわないで、日々の実践で取り組みたいもの。その意味で、本紙が紙上討論の場になるよう、意見や感想をどんどん投稿してください。

(上村記)